

---

# ウサギとカメ

問道 火偉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ウサギとカメ

### 【Nコード】

N9184F

### 【作者名】

問道 火偉

### 【あらすじ】

足のはやい動物が一番「えらい」という変わった山。そこに暮らす足の遅いカメさんはいつもみんなにバカにされていた。そんなある日みんなを見返してやろうと一番足のはやいウサギさんにかけてこを挑むのだが……

（前書き）

誰もが一度は読んだ事のある童話、ウサギとカメ。  
けれど、これは誰も見た事も聞いた事もない童話。  
こんな話だったらいいのになと思って書いてみました。  
そんなウサギとカメをどうぞ……

これは、遠い遠い国のお話

あるところにお山がありました

ふつつの生き物は「つよい」が「えらい」なのに

その山の生き物たちは「はやい」が「えらい」でした

だから、その山で一番「えらい」のは、力持ちのクマさんでもなく、

おりこうなキツネさんでもなく、足のはやいウサギさんでした

そして、足のおそいカメさんは一番「えらい」じゃなかった

「えらい」じゃないカメさんはいつもみんなにバカにされてました

「やあ、カメさん。君はいつもノロノロして大変そうだね」

「やあ、カメさん。一休みかい？ああ、違ったそれでもうごいていたんだね」

みんなにバカにされたカメさんにとってもくやしくなりました。

そんなある日、カメさんはみんなをみかえしたくなって

ウサギさんとかけっこをしようと思いました

ウサギさんはこの山で一番「はい」で一番「えらい」です

誰もウサギさんにかけてっこで挑もうなんて思わないほどう

だから、そんなウサギさんにかけてっこで勝てば

きっとみんなにバカにされなくなると思ったのです

「やい、うさぎさん。僕と山のとっぺんまでかけっこでしようぶしろ」

「カメさん……きみじゃ僕にかてないよ？」

「そんなのやってみなけりや分からないだろ！」

カメさんはウサギさんの言葉に耳をかさずかけっこは始まっていた

ウサギさんが山のとっぺんまであと少しという所まできても

カメさんはまだまだ下の方にいました

（このままじゃ僕が勝ってしまう……）

そうなればカメさんはまたみんなにバカにされちゃうだろう……

それはかわいそうだな……よし、こうしよう!-!)

ウサギさんはカメさんが可哀想に思い、わざと負けようと

近くの木にもたれかかると居眠りをはじめました

どれぐらいの時間がたったでしょう

(もう、そろそろいいかな……?)

ウサギさんがそう思っ て目を覚ますと、

「やあ、ウサギさんお目覚めかい?」

目の前にカメさんがいました

「それじゃあ、勝負をさいかいしよう」

「カメさん! どうして僕が眠っている間にゴールしなかったんだい?」

そうたずねたウサギさんにカメさんは言いました

「そんなズルをして君に勝っても意味がない! 僕は正々堂々勝ちたいんだ!」

ウサギさんはカメさんにズルをさせようとした事を恥ずかしく思い

ました

かけっこがさいかいするとウサギさんはおもいきり走りました

そして一気に山のとっぺんまで行き、かけっこはウサギさんの勝ちになりました

「やっぱりウサギさんは足がはやいな」オラよりのろまなカメさんに負けるわけないよ」

そう言ったのはクマさんでした

「すばやい私でもかなわないのにのろまなカメさんがかなうはずないよ。」

そんな事もわからないなんてカメさんはバカだな」

と、キツネさんが言いました

カメさんはくやくてくやくてなきだしそうになりました

すると、ウサギさんがこう言ったのです

「この山で一番「えらい」はこの僕だ」

その言葉にみんながうなずきました

「でも、二番目に「えらい」はカメさんだ」

けれど、この言葉にはみんなビックリしました

「ええ！？」「どうして！？」

「オラ、カメさんよりずっと「はい」「よ！？」「私もです！」

不満そうなクマさんとキツネさんにウサギさんは言いました

「君たちは僕に敵わないからとはじめからあきらめていた。

けどカメさんは正々堂々、僕と勝負した。

スタートラインに立つことすら出来なかった君達より

ずっと「えらい」だろう？」

クマさんもキツネさんも何も言い返せませんでした。

そして、ウサギさんはこうも言いました。

「一番「えらい」僕の命令で今日から一番「えらい」はカメさんにすること！」

「ええっ！？」

これにはみんななんとでもビックリしました



そして他の誰よりもカメさんが一番不思議に思いました

「ウサギさん……どうしてそんな事を？」

「カメさん……僕はかけつこのとちゅうでわざと負けようとズルをした……」

けれど君はズルをせずに正々堂々と最後まで走りぬいた。

それは「はい」よりずっと「えらい」ことだと思っんだ。

だから、一番「えらい」はきみだよ」

カメさんはどうしていいか分かりませんでした

「そんな……」

けれど

「そうだよ。カメさんが一番「えらい」だよ」

「あたしもそう思うわ。カメさんが一番「えらい」よ」

リスさんも小鳥さんもうんうんとうなずいてくれました

ポカンとしているカメさんにウサギさんはいつてあげました

「カメさん。みんなもこういつてくれてるんだ。」

この山で一番「えらい」は君だ。

クマさんやキツネさんにどんな事を命令してもいいんだよ？」

「ええ！？」「そんな！？」

これにはクマさんもキツネサンもビックリです

そして今までずっとカメさんにひどい事を言ってきたので

どんな仕返しをされるんだろう、とブルブルふるえました

だから、カメさんは言いました

今までずっと言いたかった事を

それから、カメさんの命令でその山は少し変わりました

もう、一番「えらい」は「はい」ではありません

でも、カメさんでもありません

一番「えらい」は「みんな」

みんなが一番えらい

だから、だれかがだれかをバカにするような事はなく

みんな仲良く楽しく

幸せに暮らすようになったのです

おしまい

（後書き）

いかがだったでしょう？

アレンジを加えすぎてほとんどオリジナルに近いものになってしまったウサギとカメ。

本当はもっと原作に近い物にしかつたんだけど……

感想・コメントお待ちしております

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9184f/>

---

ウサギとカメ

2011年1月16日09時49分発行